

1. 単元名 「つなぐお茶、いかすお茶（福住茶） ～人と地域と自然の中で～」

2. 単元の目標

- ・年間を通じてお茶の学習をする中で、福住でのお茶栽培の歴史や育てられている環境、茶摘みの方法、お茶農家の生産・加工過程での苦労や課題などを知ると共に、これから福住のお茶を守っていく方法や現在の耕作放棄茶畑の活用、里山保全の大切さについて理解することができる。
- ・自分たちでお茶の木を育てる活動を通して、茶畑の管理やお茶の生産の大変さなどに気づき、これからの福住でのお茶作りについて考えることができる。 (知識・技能)
- ・福住のお茶農家が減少してきた原因や背景を知り、現在も続くお茶農家の方の思いやこれからの福住のお茶を守っていくための方法を考えると共に、自分たちの考えや取組を作品や壁新聞などにまとめて、表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・福住のお茶の歴史や生産方法を学んだり、お茶農家の方や福住のお茶の再生、里山保全に関わっている方の思いを知ったりする中で、これから自分自身がどのように郷土へ関わっていくのかについて主体的に考えることができる。
- ・守り受けつがれてきた福住のお茶の再生や里山保全に向けて、福住のお茶の木を育てる活動に対し自分事として取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

ここでは、かつて福住地域で盛んに栽培されていた「福住茶」を取り上げて年間の学習に取り組んでいく。福住茶を教材として選んだ理由としては、本校の福住小学校・福住中学校の校章がお茶の実と花で表現されており、茶畑が広がる風景を見ながら登下校しているため、子どもたちにとっても身近で親しみやすい教材であると考えたからである。一方で、自分たちが住んでいる福住地域が、かつて福住茶の一大生産地だったことを知っている児童は少なく、実際に560件ほどあったお茶農家も、今となっては生産から加工・販売をしている農家はたった1件となってしまった。また、本校の校章にもなっているお茶の木が、学校の敷地内にも一本もないことも、児童からすれば身近なものではあるものの、興味関心がわかない原因の一つになっているのではないかと感じた。

そこで、学習内容としては、今年はずっと地元福住のお茶に焦点を当てて取り組んでいくことにした。地元のお茶農家の方に協力いただき学習会を開いて福住のお茶について学び、児童がお茶の木を育ててお茶の魅力を感じるなどの主体的な活動を展開していく。その中で、お茶づくりの過程での生産者の工夫や努力を理解し、福住におけるお茶の今後の可能性について考えたり深めたりしていくことができ、自分たちの郷土への愛着をもつことにもつなげられる教材と考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、何事にも前向きに学習や活動に取り組むことができる。また、先輩たち（5・6年生）がしているお米作りにも興味をもつなど、新たなことや経験したことないことへの関心が高く、様々なことにチャレンジしようとする態度が見られる。一方で、習得した知識や技能を生かして問題解決したり、手段や方法の工夫をしてまとめたり、思いや考えを表現したりできる児童は一部に限られている。やりたい・チャレンジしてみたい気持ちはあっても、身についた知識や技能の活用方法が分からなかったり、有効的な表現方法を知らなかったりすることが考えられる。また、クラス9名のうち、5名は校区外から登校している児童で、実際に福住に住んでいるわけではない。福住への愛着と考えると、地元福住から通っている児童に比べ希薄な部分があるという特殊な事情もある。

そこで、このお茶の教材を通して、感じたこと思ったことを言語化する力や問題や課題の解決に向けての思考力・表現力を育て、主体的に発信できる力を子どもたちに身に付けさせたい。その力が、現

在の福住が置かれている農業や里山への諸問題に取り組んでいくための力になっていくと考えている。学習の中で、地域の方々と関わり、様々な体験や活動を重ねる中で、福住に住んでいなくとも第二の故郷と思って主体的に地域へ関わるような児童を育みたいと考えている。

### (3) 指導観

指導の導入に当たっては、地元福住のお茶に焦点を当てるということで、昨年度に引き続き、地元のお茶農家のご自宅の加工場へ見学に行ったり、新茶摘みの体験に行かせていただいたりして地元のお茶に親しむ機会を増やした。収穫したものいただいたお茶を飲み比べながら五感で感じたことをメモに取り、それをもとに感想文を書いた。お茶の工場見学で見た機械の動きや、蒸された茶葉の香りや触り心地、お茶を摘み取る際の新茶の音や触感、採れたてを食べてみての味や食感、煎茶と生茶の飲み比べなど、五感を活用して言語化し表現する良い機会となった。子どもたちも実体験は言葉にしやすく、感じたまま表現できていた。このお茶の学習を生かす場として、俳句の講師に来ていただき、テーマを「お茶」にしぼって、これまでの実体験を五・七・五の十七音に言語化する学習を行った。「おいしい」ことを「おいしい」と、「美しい」ことを「美しい」と言わない。言葉の使い方や選び方をはじめ、表現方法の多様さ、助詞がもつ意味の違い、季語の持つ力、語彙の組み合わせ方、言葉の配置による印象の違いなど、言葉の専門家ならではの視点で表現の教授をいただいた。それにより、子どもたちは自然と言葉を紡ぐことにのめりこむようになった。子どもたちの作った俳句は壁新聞にして、地域の七月市に展示し、地域の方々に楽しんでいただくことができた。

展開の部分としては、もっと福住茶のことを知るべく、1学期にもお世話になったお茶農家の方を学校にお招きして、福住唯一のお茶農家としての思いや願い、お茶づくりなどについて学習会を行った。福住のお茶の歴史や栽培方法、生産者としての努力ややりがいなどを知ることで、子どもたちも更にお茶への興味が湧き、栽培への意欲も高まった。お茶農家の方からいただいたお茶の枝と実を植えて、現在栽培に向けて取り組んでいるところである。目標としては、学校敷地内に茶畑を作り、収穫・加工して福住のお茶づくりについて学びを深めていきたいと考えている。

学習のまとめとして、お茶の可能性を広げることを目指して取り組んでいきたい。そのために、数年前からお世話になっている地元企業の健一自然農園さんと連携して、お茶の焙煎やブレンドティーづくりを計画していく。学校用の焙煎の釜も準備しているので、収穫した茶葉をどのように焙煎していくのかや、他学年が栽培しているハーブで本校自家製のブレンドティーに挑戦するなど、福住のお茶を中心に様々な活用法を考えていく。また、福住地域は寒い地域柄もあって昔から高野豆腐も盛んである。福住の卒業生が考案して天理市の学校給食のメニューにもなっている高野豆腐を使った「ひむろんドーナツ」もあるので、地域の方と一緒に学校で焙煎した茶葉を使って作ることも検討できる。これらの活動の成果を、七月・十一月・三月市の地域のイベントで発信することにも引き続き取り組んでいく。

お茶の学習では、教科横断的な学習活動を進めるのはもちろん、他学年や地域の方々など様々な異年齢との交流や関わりを通して、まちづくりやふるさとの資源について考えを深めていくことに期待している。そして、最後には、福住をどのような地域にしていきたいかを主体的に考えられる子どもたちに育みたいと考えている。

### (4) ESDとの関連

#### ○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・多様性：地域に残る自然の生かし方を変えていけば(昔を参考にしていけば)、更に自然も豊かになり、生物も多様化し、人間にとってもより良い生活につながるということ。
- ・相互性：お茶の学習を通して、人と人とのつながり、人と生物とのつながり、学校と地域とのつながりを実感でき、相互への刺激になること。
- ・公平性：子ども、教師、保護者、地域の方(お年寄り)、企業(様々な年代)などの世代間との関わりから、今だけでなくこれからの産業(お茶)の在り方を考えていくこと。
- ・責任性：お茶を味わうだけでなく、福住の特産品であった「お茶」を、これから先どのように守り続けていくかを考えていくこと。

#### ○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力(Critical Thinking)

身近な「お茶」の作られ方を知るだけでなく、なぜ福住の特産品であった「お茶」の産業が衰退し、耕作放棄茶畑が増えてきたのかについて考え、このままでいいのかを問い直す。

- ・未来像を予測して計画を立てる力  
これまでのお茶と地域の在り方を見直し、将来の福住をどうしていきたいかの見通しをもつことができる。
- ・他者と協力する態度  
自分たちだけでなく、地域の方々や企業の方の知恵や技術を借りながら、協同することができる。
- ・つながりを尊重する態度  
地域の中の自分、地域の学校の意識をもって、人とのつながりや次世代へのつながりを考えることができる。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正  
大切にしていかなければならないもの、大事にしたいものを引き継ぐ意識や意志をもつこと。
- ・自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)  
地元福住(天理)の自然や生物を守ることの重要性やその意義を理解し、行動すること。
- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。  
より良い生活や人生、コミュニティを築いたり追及したりする前向きな気持ちや考えをもつこと。

○達成が期待されるSDGs

- ・目標11：まちづくり・・・耕作放棄茶畑の利用と整備・再生を通して、福住の魅力や可能性の開拓
- ・目標15：陸上資源・・・限りある資源の利用と生物との共存の在り方

4. 単元の評価規準

総合的な学習の時間(福住学)		
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①茶摘み体験や工場見学を通して、茶葉の特徴について自分の言葉でまとめている。	①茶摘み体験や工場見学を通して、収穫したての茶葉と加工した茶葉の様子の違いや変化について考えている。	①福住茶の歴史や栽培方法、生産者の工夫や努力などについて、意欲的に追究しようとしている。
②お茶づくりで、自然条件の生かし方や、生産性や品質を高めるための生産者の工夫や努力などについて調べている。	②福住の気候とお茶栽培の気候条件を関連させながら、福住茶の歴史や生産について考えを深めている。	②福住の気候とお茶栽培の気候条件、福住のお茶の歴史や現状など、比較したり関連させたりして栽培・生産などの課題や解決策を考えようとしている。
③お茶づくりの工程や生産者の工夫や努力を理解するとともに、学習したことを整理して俳句や壁新聞などにまとめている。	③お茶の栽培に向けて、自然条件の生かし方や地域の方から学んだことをもとに栽培方法を考えている。	③お茶の学習で学んだことを、俳句や感想文、壁新聞など自分の言葉で表現しようとしている。
④お茶の木に興味を持って観察しながら育てている。	④お茶の栽培や加工、生産者の工夫や努力など学習したことを整理して、俳句や感想にまとめて表現している。	④お茶づくりに向けて、栽培方法や焙煎の仕方の工夫、ブレンドティーの組み合わせなどみんなと協力して考えようとしている。
⑤お茶の特徴や様子を見て焙煎の仕方を工夫したりブレンドティーの組み合わせを考えたりしている。	⑤お茶の特徴やお茶と福住とのつながり、栽培の様子、焙煎の仕方、ハーブとの組み合わせなど、これまでの活動を壁新聞で表現している。	⑤福住茶の学習を通して、これからの福住のお茶の栽培や生産、農業のあり方などについてみんなと意見を交流しようとしている。
		⑥福住茶に対して、これから自分にできることややってみたいことを主体的に考えようとしている。

5. 単元の指導計画（全32時間）【関連教科】

次	主な学習活動	学習への支援	評価 (■) 準備・備考 (△)
1	<p>①お茶の学習の見通しと計画 ・昨年度の活動のふりかえり ・今年度目指す学習の目標を決める 目標：「福住のお茶について学び、自分たちでお茶を栽培する」</p> <p>②お茶の加工場の見学【社会】 ・お茶農家の方が製造したお茶の試飲会</p> <p>③茶畑へ茶摘み体験 【国語・理科・家庭科】 ・生茶の試飲会 ・ふりかえりシート</p> <p>④お茶の学習で五・七・五【国語】 ・俳句で七月市用の壁新聞づくり</p>	<p>①年間の見通しと、何を学ぶのかの意識付けをする。検討する。 ・「お茶」と「福住」のつながり ・お茶づくりに関わる地域の方 ・お茶の木の栽培に向けて</p> <p>②お茶の加工・製造過程を実際に見学し、できたお茶の試飲を通して福住茶に親しむ機会を設ける。</p> <p>③茶摘み体験でお茶に触れて、五感で感じ取る機会を設ける。 (体験：試飲→言語化)</p> <p>④体験を通してお茶と自分の気持ちを表現する。</p>	<p>△事前連絡 講師：お茶農家の方 △ワークシート ■ア - ①②</p> <p>△事前連絡 講師：伊川健一さん (健一自然農園) 地域の方(茶畑) ■ア - ①、イ - ①</p> <p>△事前連絡 講師：俳句の先生 ■ア - ③、イ - ④</p>
2	<p>①お茶についての調べ学習【情報】</p> <p>②お茶の学習会【国語・社会】 (お茶農家の方) ・福住のお茶の歴史 ・お茶の栽培・加工・製造・販売 ・お茶づくりについての思い ・ふりかえりとお礼の手紙</p> <p>③お茶の木の栽培に向けて【理科】 (お茶農家の方から提供) ・お茶の葉、花、実の観察 ・実生栽培 ・挿し木栽培</p> <p>④まとめ【国語】 ・十一月市の壁新聞づくり</p>	<p>①福住のお茶の歴史について調べる。</p> <p>②福住唯一のお茶農家の方からお茶についてお話を聞き、福住のお茶や栽培・生産について知る。</p> <p>③お茶の葉、花、実を観察して、栽培方法についてお茶農家の方の話を生かして調査をする。 学年(グループ)に分け、責任を持って栽培するように意識させる。</p> <p>④学んだことについての自分たちの考えや気持ちをまとめる。</p>	<p>■ウ - ①</p> <p>△事前連絡 講師：お茶農家の方 △ワークシート ■イ - ②③ ウ - ① △お礼の手紙</p> <p>△お茶の枝と実 ■ア - ④</p> <p>■ウ - ③</p>
3	<p>①三年晩茶づくり 【国語・理科・家庭科】 ・茶畑にて収穫 ・鉄釜で焙煎(本年度から使用) ・加工(ハーブとのブレンド) ・試飲会</p> <p>②福住のお茶について【国語・社会】 ・栽培・加工・製造→販売・商品化 ・活用法(地元食文化との連携)</p> <p>③まとめ【国語】 ・三月市の壁新聞づくり</p>	<p>①お茶の収穫・加工・製造・試飲までを体験し、お茶づくりの大変さや工夫について考える機会にする。</p> <p>②お茶の活用に向けて、福住の食文化や自分たちの生活と関連させてイメージを膨らませていく。</p> <p>③学習したことや福住のお茶の今後について文字や絵で表現する。</p>	<p>△事前連絡 講師：伊川健一さん (健一自然農園) ■ア - ⑤</p> <p>■ウ - ②④</p> <p>■イ - ⑤ ウ - ⑤⑥</p>

## 6. 成果と課題

### (1) 成果

昨年度に引き続き、地域の方々と交流を深めながら学習できたことが何より実りある学びにつながったと考えている。茶畑への茶摘み体験をはじめ、数年ぶりに復活した加工場の見学、いただいた煎茶と摘み取った生茶の飲み比べなど体験的な学びを数多く実施できた。それに加え、地域の方から福住のお茶についての学習会では、福住の気候を生かしたお茶栽培の歴史や地域の事情、食文化、栽培方法、生産者の思いなど学校での調べ学習では学べない数多くの学びをすることができた。ここでの学びは、子どもたちにとっても教師にとっても、これからお茶の学習を進めていくうえで、大きな財産になった。地域の方や地域に関わる企業との交流や学習を通す中で、E S Dで身につけたい資質・能力の「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」と、E S Dで育てたい価値観の「世代間の公正」「自然環境、生態系の保全を重視する」が、少しずつ子どもたちの中で育まれている実感もあった。地域の中の自分、地域で大切にしたいものへの意識が高まって、まとめの新聞づくりや感想などのふりかえりでも主体的に考える姿も多く見られるようになった。

そして、学習会でお世話になった地域の方からお茶の枝と実をいただき、子どもたちと一緒にお茶の木を育て、学校敷地内に植えることを目標に、今も新たな学びへの挑戦が始まっている。これまで以上に、子どもたちがお茶に興味を持つようになり、一生懸命水やりや観察をして育てている。現状、芽は出ておらず、挿し木にしている枝も枯れてはいないが根を張っている様子は見られない。引き続き3学期も、お茶の木の生長を子どもたちと楽しみにしたいと思っている。

最後に、これまでのお茶の学習で感じたことやお茶への考えを言語化する活動として、お茶をテーマに、五・七・五の俳句にする学習を通して、子どもたちの表現の引き出しを増やすことができたのは、教科横断的な観点で見ても、成果の一つになったと考えている。指導観でも述べたように、「おいしい」ことを「おいしい」と、「美しい」ことを「美しい」と言わない言葉の使い方や選び方をはじめ、表現方法の多様さ、助詞がもつ意味の違い、季語の持つ力、語彙の組み合わせ方、言葉の配置による印象の違いなど、表現力を育む学習を1・2学期通して実施することができ、子どもたちの表現力が豊かになったと実感できる取組となった。

### (2) 課題

これまで行った茶摘み体験や加工場の見学、お茶の学習会、今後予定しているお茶の焙煎（三年晩茶）などの体験や学習が形骸化して、毎年のただのイベントになっていないか子どもたちとしっかり検討しながら進めていく必要もあり、実際にしていかなければならないと感じている。

また、今年度の始めには、目標を決めて望んでいるものの、学習会前の福住茶の事前調査や学習したことのまとめ方（新聞づくり）、栽培に向けての見通しなど、目的を再確認し、体験だけで終わらず課題や活動の工夫を考えたり子どもたちと相談したりしながら進められなかった部分もあった。

現在、「お茶の木を育てる」ことに挑戦しているので、きっと一筋縄ではいかないことも失敗することも今後あると思うが、その時に焦らず一度立ち止まって、教師主導ではなく、子どもたちからより良いアイデアや活動方法・内容を引き出していけるように、教師のサポートのあり方を見直して3学期に望むことが重要だと考えている。

それに加え、これからは今年以上に地域の方々との関わりを増やしていきたい。地域の方々に教えていただくだけでなく、地域の方々と協力しながら、新たな課題へ挑戦していけるような取り組みもしたいと考えている。子どもと地域、学校が試行錯誤を重ねて協働する中で、地元「福住」がこれから何十年先にどう在りたいのかを考える機会を作っていけたらと考えている。

### (3) 今後について（E S Dの観点から）

今回、私が設定した「達成が期待されるSDG s」の2つの目標について

#### 【11：住み続けられるまちづくりを】

かつて560件近くあった福住のお茶農家が、今やわずか1件となったこの現状を昔のように戻していくことはできなくても、現代の生活観にあった方法で福住のお茶を守っていくために、福住のお茶の歴史や生産を学んだり地域のお茶農家の方とつながったりできたことは、「住み続けられるまちづくり」に向けての第一歩になったと感じている。お茶のある環境で子どもたちが育ち、お茶に触れ、自分たちで育てて、自分たちで製造（焙煎）する経験の中に、地域の方々が関わることを積み重ねていけば、地域の中でお茶への意識も少しずつ高まっていくと信じている。実際に、三年晩茶でも企業や地域、学校

が協力して取り組んだことで、耕作放棄されていた茶畑が再生し、雇用が生まれ、福住のお茶が再注目されている実情もある。福住の子どもたちの学びを福住地域の発展につなげていきたい。

### 【15：陸の豊かさも守ろう】

企業と地域、学校の連携による三年晩茶の取組を通して、再生された茶畑もあるが、それでもまだ福住地域には耕作放棄された茶畑が数多くある。管理されていない山があることは、防災の観点で見ても私たちの暮らしにとって決していいものではない。お茶の木を育てる学習を通して、お茶の木が担っている役割やお茶の活用法を考えていくことで、福住の茶畑をこれからどうしていけばいいかを考えるきっかけになると考えている。お茶の栽培・生産・消費のサイクルを理解し、福住の中で昔のような茶畑の循環ができれば、そこに住む生き物の保護にもつながり、私たち人間の営みを守ることにもつながると考えている。

## 7. 資料



加工場の見学

茶摘み体験



お茶の試飲会



俳句作り



お茶の新聞



# つなぐお茶、いかすお茶（福住茶） ～人と地域と自然の中で～



カリキュラム・マネジメント 2026年1月

天理市立福住小学校 大野 直彬

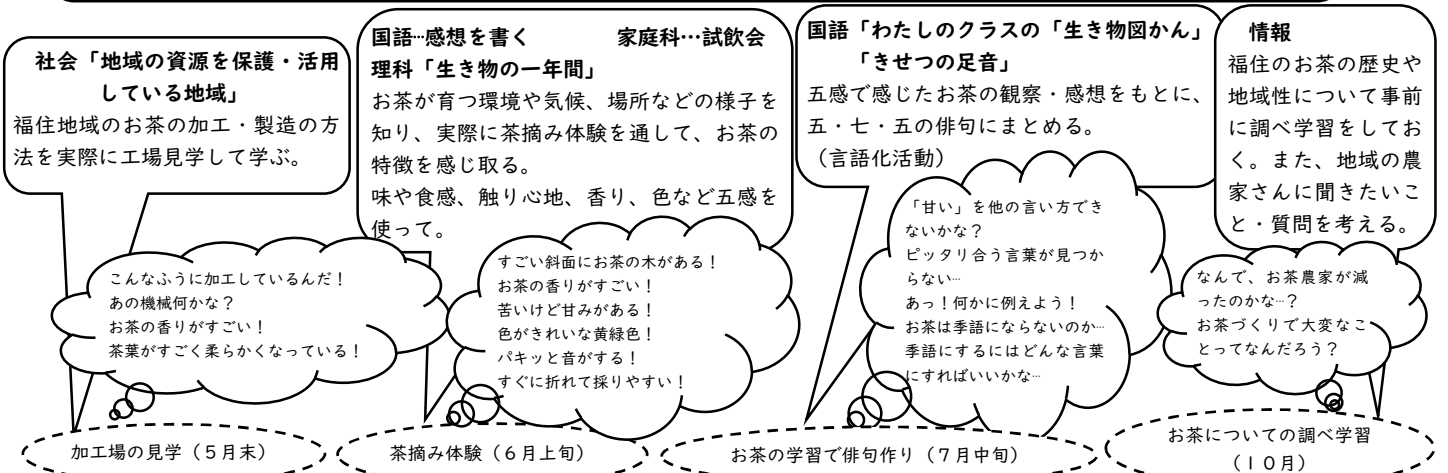
## 〈今年の目標〉

- 大和茶（大和高原で作られているお茶）と福住地域との関係を学んで、福住茶について知る。
- お茶の木を育てて、福住小中学校の敷地内に茶畑を作る。

主な関連教科	授業時数
福住学（探究）	約 16時間
福住学（情報）	約 2時間
国語	約 7時間
社会	約 2時間
理科	約 5時間
合計	約 32時間

## 目指す子どもの姿

- 自分事として「まち」や「生産・消費」、「自然環境」について考え、行動することができる子。（主体的に取り組む）
- 地域の人々との関わりや自然環境の保全の大切さなどを実感し、様々なつながりと相互に理解し合い、協力することができる子。（共生の心）
- お茶の栽培・生産・継承の課題や人や自然にやさしいお茶づくりの探究、自然環境・里山の保全など様々な問題を、他者と協働して解決できる子。（問題解決力）



## 総合的な学習の時間（探究・情報）「つなぐお茶、いかすお茶（福住茶）～人と地域と自然の中で～」

- 主に養いたいESDの資質・能力
  - 他者と協力を態度      自分たちだけでなく、地域の方々や企業の方の知恵や技術を借りながら、地域活性化・里山保全に向けて協同することができる。
  - つながりを尊重する態度      地域の中の自分、地域の学校の意識をもって、人とのつながりや次世代へのつながりを考えることができる。また、人と自然環境（生物等）とのつながりについても理解し、考えを深めることができる。
- 主に育てたいESDの価値観
  - 世代間の公正      大切にしていかなければならないもの、大事にしたいものを引き継ぐ意識や意志をもつこと。
  - 自然環境、生態系の保全を重視する。（生物多様性の重視）      地元福住（天理）の自然や生物を守ることの重要性やその意義を理解し、行動すること。

